

都市再生整備計画 事後評価シート  
キャスティ21イベントゾーン周辺地区

令和 3年 3月

兵庫県姫路市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名	姫路市		地区名	キャスト21イベントゾーン周辺地区			面積	7.6 ha	
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	3,564.4		国費率	0.5		
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(1号公園整備事業)、地域生活基盤施設(歩行者デッキ整備事業、高架下空間整備事業)、高質空間形成施設(歩6-1号整備事業)、高次都市施設(文化コンベンションセンター整備事業)									
		提案事業	なし									
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
新たに追加した事業		なし										
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	歩行者・自転車通行量	人/日	63,639	H26	87,700	R2	70,434	△	あり なし	来訪者の利便性が増し指標改善に効果があったが、目標には届かず大幅な増加は見込めないものの、施設開業の影響による増加が今後期待される。	
	指標2	施設来場者数	人/年	362,443	H27	724,886	R2	746,559	○	あり なし	関連事業を含めて基盤整備によるアクセス性の向上、中心拠点として一層の都市機能の集積、交流活動の場の整備により来場者数が増加。	令和3年12月
	指標3	駅から施設までの所要時間	分	15	H28	10	R2	10	○	あり なし	姫路駅から文化コンベンションセンターまで関連事業を含めて一連の歩行者デッキが整備されたことにより、所要時間を短縮。	
	指標4	高架下空間の利用率	%	15.0	H28	16.5	R2	20.3	○	あり なし	民間事業者との連携・協働により、1号公園等と一体となった交流空間としてJR播但線高架下を整備することにより利用率が増加。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	実施無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	基本計画から工事完了までの期間において、検討懇話会やパブリックコメント、意見聴取、専門家会議など、幅広い市民参画事業等を実施し、意見や要望を反映させつつ施設を整備		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●				
	持続的なまちづくり体制の構築	設計段階から指定管理者を決定し、文化国際交流財団や観光コンベンションビューローと連携して管理運営体制を整えることにより、質の高い拠点整備を実現するとともに、日常利用を促進		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 姫路市の魅力向上と都市の活力を生み出す交流拠点を実現するため、姫路市と指定管理者、文化国際交流財団、観光コンベンションビューローによる連携体制を構築				

様式2-2 地区の概要

キャスト21イベントゾーン周辺地区

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
広域圏の中核都市にふさわしい、にぎわいとうるおいにあふれた中心市街地の再生 目標1：市民の多様な交流を促進する拠点施設等、コンパクトシティに貢献する中心拠点づくりによる、人々が集い、にぎわいあるまちづくり 目標2：安全・安心、快適で、魅力的な都市空間の創出による、うるおいにあふれたまちづくり 目標3：行政と民間事業者等との連携・協働によるまちづくり	歩行者・自転車通行量	単位：人/日	63,639	H26	87,700	R2	70,434	R2
	施設来場者数	単位：人/年	362,443	H27	724,886	R2	746,559	R2
	駅から施設までの所要時間	単位：分	15	H28	10	R2	10	R2
	高架下空間の利用率	単位：%	15.0	H28	16.5	R2	20.3	R2
		単位：		H		H		H

**キャスト21計画のゾーン**

- 基幹事業 地域生活基盤事業 高架下空間整備事業
- 基幹事業 地域生活基盤施設 歩行者デッキ整備事業
- 関連事業 病院事業 (仮称)県立はりま姫路総合医療センター整備事業
- 基幹事業 高質空間形成施設 歩6-1号整備事業
- 基幹事業 公園 1号公園整備事業
- 基幹事業 高次都市施設 文化コンベンションセンター整備事業
- 関連事業 暮らし・にぎわい再生事業 キャスト21イベントゾーン周辺地区暮らし・にぎわい再生事業

**凡例**

- 基幹事業
- 関連事業
- 計画区域
- 撮影方向

**指標1** 歩行者・自転車通行量

**指標2** 施設来場者数

**指標3** 駅から施設までの所要時間

**指標4** 高架下空間の利用率

まちの課題の変化 ・事業前の課題については、関連事業を含む都市再生整備計画事業により達成や改善が見られるが、新型コロナウイルス感染症予防対策による外出自粛の影響等により歩行者・自転車通行量については伸び悩んでいる。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

今後は、『広域圏の中核都市にふさわしい、にぎわいとうるおいにあふれた中心市街地の再生』をめざす5つの方策を整理する。

- ①東西軸と合わせて回遊性の面的な拡大を図るため、多様な交通アクセスを可能にする補完的な交通手段としてシティサイクルステーションの設置、周辺道路の無電柱化・美化化・車両通行制限による歩行空間の拡大、自転車専用レーンの検討、2号公園の整備推進を行う。
- ②コンパクトシティの推進を図るため、イベントゾーン周辺地区内に都市機能の充実として公共交通のルート拡充(バス停の新設)を検討する。
- ③高架下の一層の活用を図るため、JR山陽本線高架下等における官民連携による商業施設の誘致、駐車場及び駐輪場の整備を行う。
- ④賑わいとうるおいの一層の創出による交流都心づくりの促進を図るため、賑わい交流促進事業、市民文化醸成事業、コンベンション誘致事業を行う。
- ⑤商店街等各種団体との連携による賑わいづくりを推進する。